

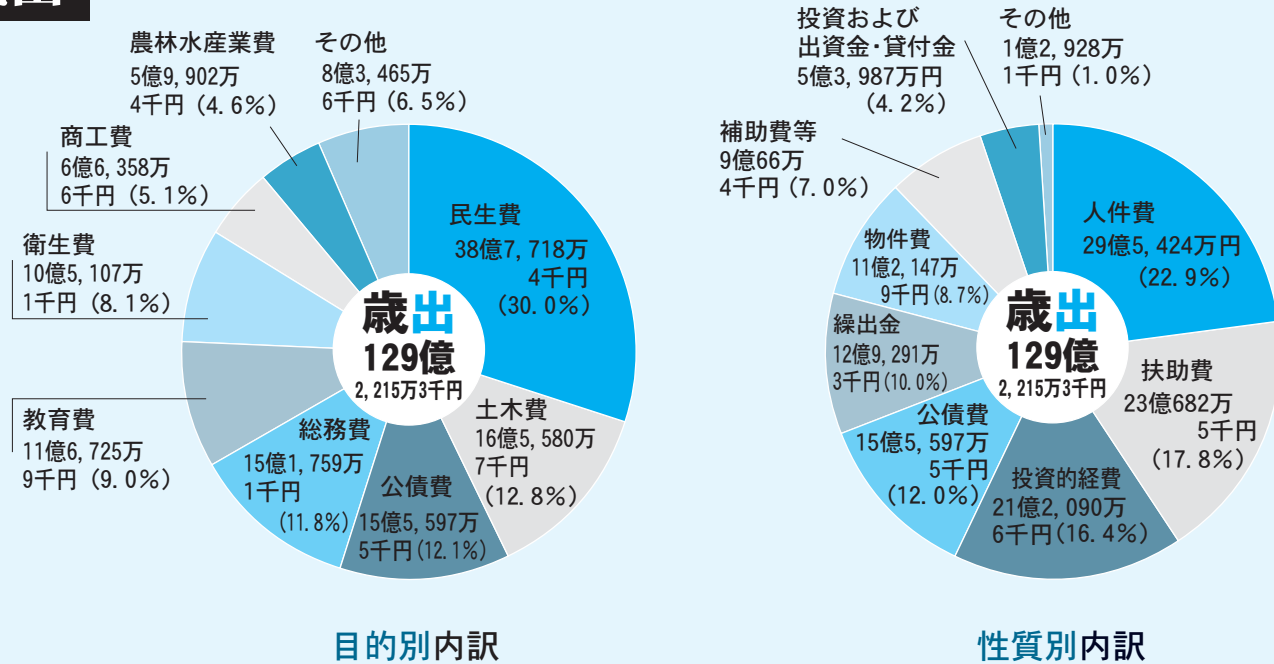
一般会計決算

●歳入決算額 130億 79万1千円(前年度131億2,164万5千円)

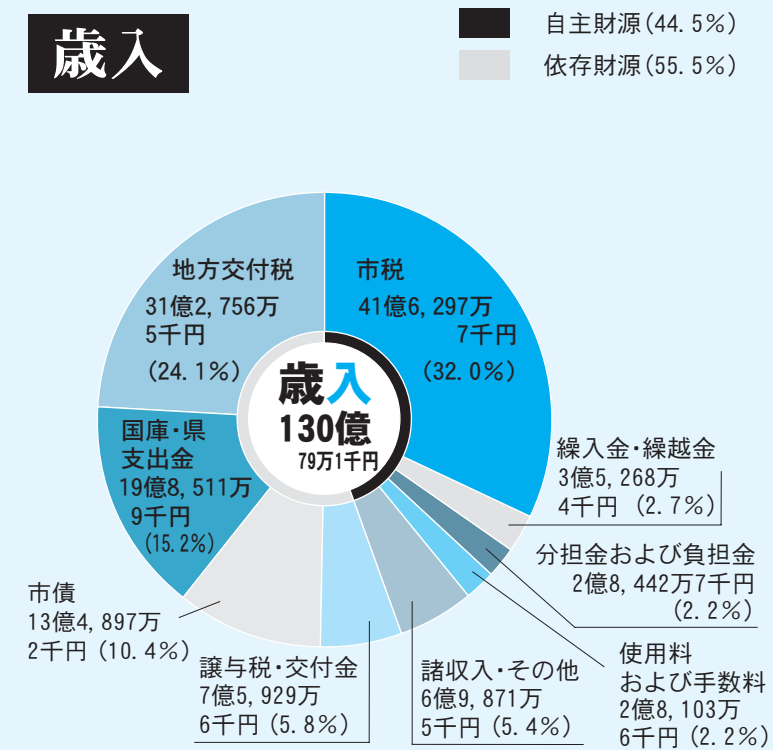
●歳出決算額 129億2,215万3千円(前年度127億1,896万1千円)

# お知らせします 「平成19年度 一般会計決算」

## 歳出



## 歳入



市では、市民のみなさんが納めた税金や国、県からの交付金、補助金などがどのように使われているのか、また、市の財政状況や財産はどうなっているのかをお知らせするため、年に2回、財政運営の状況をお知らせしています。

今回は、平成19年度の大川市決算の概要と、平成20年度上半期(平成20年4月1日から9月30日まで)の予算の執行状況、および平成19年度末現在のバランスシートについてお知らせします。

## 平成19年度 一般会計決算の概要

平成19年度の決算は、歳入歳出差引き7,863万8千円の黒字となっています。

決算額を前年度と比べると、歳入で1億2,085万4千円減(0.9%減)、歳出で2億319万2千円増(1.6%増)となっています。

歳入については、市税、県支出金、市債などが増加しましたが、地方譲与税、地方交付税、繰入金などが減少したため、全体では前年度より減少しました。

歳出については、人件費、公債費が減少しましたが、普通建設事業費、扶助費、繰出金などが増加したため、全体では前年度より増加しました。

最近の市の財政状況は、歳入では国からの税源移譲による市税収入の増加(前年度比8.4%増)となりましたが、地方交付税の減少(前年度比6.0%減)、所得譲与税の廃止に伴う地方譲与税の減少(前年度比59.6%減)となっています。歳出では人件費、公債費などの義務的経費の抑制に努めています。(前年度比4.3%減)

市では、行政改革大綱を策定し、行財政改革を推進しています。今後も、新たな行政需要には的確に対応しながら、なお一層の経費の節減合理化と収入の確保を図ります。

## 大川市の家計簿

平成19年度の決算状況をわかりやすくするために年間の収入が500万円の家庭の家計に置き換えてみました。

収入	
給料などによる年収(市税、諸収入など)	222万円
実家からの仕送り(交付税、国庫・県支出金など)	226万円
銀行からの借入金(市債)	52万円
合計	500万円

支出	
食費(人件費)	114万円
医療費(扶助費)	89万円
自宅の修繕、増改築費(維持補修費、投資的経費)	86万円
自治会費、サークル活動の費用(補助費等、出資金・貸付金)	55万円
親類への援助金(繰出金)	50万円
光熱水費、通信費(物件費など)	43万円
ローンの返済(公債費)	60万円
合計	497万円

## 財政用語の解説

### 《歳入》

- ▼地方交付税＝自治体の財政力に応じて国から配分されるお金(財政力が弱いほど依存率が高い)
- ▼市債＝事業を行うために市が借りたお金
- ▼国庫(県)支出金＝さまざまな事業に対して使いみちを特定された国(県)から受ける補助金など
- ▼自主財源＝市税や市の施設の使用料など、市が独自に調達できる財源
- ▼依存財源＝地方交付税や国庫(県)支出金など、国(県)から交付されたり、割り当てられたりする財源

### 《歳出》

- ▼公債費＝事業を行うために市が借りたお金の償還金
- ▼扶助費＝社会保障制度の一環として、児童、老人、生活困窮者などを援助するための経費
- ▼投資的経費＝施設の新増設や災害復旧などに要する経費
- ▼義務的経費＝支出が義務づけられたお金で、人件費・扶助費・公債費を合わせた経費